

第5回江別市行政審議会 会議録（要点筆記）

日 時：平成30年3月20日（火） 10:00～11:30

場 所：江別市民会館 37号室

出席委員：押谷一会長、田口智子副会長、碓井和弘委員、岸本佳廣委員、田原久美子委員
成田裕之委員、西脇崇晃委員、山崎雅江委員、豊田選子委員、中井和夫委員
三ツ井瑞恵委員、山崎啓太郎委員（計12名）

欠席委員：奥村昌子委員、安孫子建雄委員、萩原英樹委員、深瀬禎一委員（計4名）

事務局：北川企画政策部長、福島企画政策部次長
政策推進課中島参事、天明屋主査、山口主事

傍聴者：1名

■開会

■議事

■次期えべつ未来戦略について

【事務局から次期えべつ未来戦略について説明】

- ・資料1 次期えべつ未来戦略に係る意見聴取結果
- ・資料2 次期えべつ未来戦略に係る意見聴取等を踏まえた戦略イメージ

【質疑】

○押谷会長

各委員の意見に基づき作成された資料1、その資料1に基づき作成された資料2をご説明いただきました。資料2は戦略イメージであり、経済分野、健康分野、子育て分野という3つの柱と協働、シティプロモートは各戦略を下支えする基盤としての位置付けについてご説明いただきました。資料1、資料2についてご意見等ありますでしょうか。

○田口副会長

1点確認ですが、資料2において戦略の柱として経済分野、健康分野、子育て分野という3つを示されました。その中で、経済分野の「観光による産業の振興」という1か所のみ、特化した領域に関しての文言が記載されています。観光による産業の振興はとても重要ではありますが、この表現では、シティプロモートが求めているのは観光に特化した、産業の振興という捉え方をされてしまう懸念があります。表現の問題だと思いますが、いかがでしょうか。

○押谷会長

「観光による」という文言の「による」という部分が全て横断的に感じてしまうという懸念だと思います。江別市は文教地区、農業、産業、工業団地をはじめとする工業、EBRI等の施設など総合的に様々あります。それは江別市の強みであり、弱みでもあると思います。

田口副会長は、「による」という文言が気になったと思いますので、この趣旨はどういう

ことなのか、事務局の意見を聞きたいと思います。

○事務局

「観光による産業の振興」としましたのは、総合計画の本体に「観光による産業の振興」という項目があることも関係していますが、観光を軸として農業、商業、工業などにも波及するという効果があるため、そのような意味も込めたいということもあり、このように記載しています。

○押谷会長

産業は広い意味だと思いますが、その中で観光は一部分であるため、「による」という文言を取るのか、または、「観光など」の「など」を入れると良いのでしょうか。

○田口副会長

私は「観光・産業の振興」が良いかと思います。産業が、観光だけの目的で振興を図るならば、経済界はさらに発展し、様々な地域ブランドを開発していく意味もあると思います。「観光による」という特化した表現ではなく、広い意味に捉えた産業振興であった方がシティプロモートの柱として良いのではないかと思います。

○中井委員

今回の各委員から聴取した意見は、経済分野において、もう少し広い意味で出ているのではないのでしょうか。

また、産業分野の取組の概要として、「都市型農業の推進」が記載されていますが、理解できません。都市型農業に特化していく必要があるのでしょうか。

そのような意味で、産業全体に及ぶ表現が必要だと思います。

○押谷会長

「観光による産業の振興」は、「地域経済の振興」などの形にすると、中井委員の意見も踏まえられるかと思いますが、いかがでしょうか。総合計画とは表現が若干異なりますが、シティプロモートのシティは、地域という意味だと思いますので、より広い意味で捉えられるかと思います。

○事務局

資料2で示しているのは、事前に各委員からいただいた意見をまとめた戦略イメージであり、この文言をそのまま計画に反映するというものではございません。本日の意見も含めて、改めて市の考えを示したいと思っております。

○押谷会長

行政審議会のひとつの意見として、「観光・産業による地域経済の振興」を提言させていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

○各委員

了。

○押谷会長

3つの柱で戦略を立て、より具体的な施策、展開の基礎が作られてくるとと思いますので、後ほど、今後どう進めるかを議論したいと思います。

○碓井委員

産業・観光・生産は、市の財源確保の意味でも重要であり、各委員から寄せられた意見の数からみてもこの分野が重要だと感じています。今後、経済分野を検討する際に、札幌市近郊の市町村と競争している中では、「就業環境の充実」や「観光・イベント情報の発信」を戦略的に充実させる必要があります。魅力あるものをイメージとして伝える取組を検討していくことが必要です。

次に、健康分野では、高齢者の介護予防について、前回の審議会でも意見があったように財政的な問題もあり、市民自らが健康増進について取り組む必要があります。

最近のフィットネスジムなどを見ますと、高齢者が増加しています。市民が、要介護を先延ばしにする、他の人の世話にならずに健康に暮らすということを意識しているということではないでしょうか。今後、高齢化が進む中で、市に施設を作るなど何かを行ってほしいという形ではなく、民間の力を活用しながら生活を充実させていただくような財政上の支出減も必要ではないでしょうか。分野の中でもそのような方向性として行わなければならないと思っております。

○岸本委員

意見はまとまっていると思いますが、経済分野の3点については記載内容を変えた方が良くと思います。

都市間での競争を考えますと、江別市は都市型農業がありますが、大学生の江別市への定着は長年の課題です。市内大学には理工系の学科が少ないですが、AIなどの新しい産業ができ、優秀な人を呼ぶことも必要だと思います。その中で、大学生がAIを導入した農業と酪農が密着した新しい形の起業をすると、既存の分野ではなく新しいものができ、「産業を支える人材の育成・確保」につながると思います。

次に、交通分野で健康にも関連する話ですが、札幌市に行くには十分な公共交通がありますが、市内で病院、駅、買い物などに行く際に気軽に乗ることが出来る形態にしていきたいと思っております。車があれば問題ないですが、そうでない場合には、高齢者や子育てしている方などがまちを歩きやすくすることを検討していただきたいと思っております。

○押谷会長

大学生についても触れられていますし、様々なことを加えていただいていますので、検討させていただきたいと思っております。

前回の審議会でも、岸本委員が話していた商店街についてはいかがでしょうか。

○岸本委員

江別市内のほとんどの商店街が衰退しています。私が所属している商店街は、従来のイメージは崩れておりますので、ものではなく人にターゲットを絞った新しい商店街作りを考えています。しかし、もう一段階進む形は出来ていないのが現状です。

まちなぎわいがイオンだけで良いのかというのは、常に疑問に思っています。イオンにはないにぎわいを商店街で作り出すにはどうすると良いかを考えています。

○押谷会長

大規模な店舗だけではなく、地域に密着したサービスを提供する商店が今後必要になると

思います。それが、地域の住みやすさや人口増加につながり、子育てにも大切なことだと思います。人との会話の中で買い物や交流が深まると思います。

○田原委員

次期えべつ未来戦略の意見聴取では、まず産業を挙げました。

私は、札幌学院大学や北翔大学などの学生と話す機会がありますが、その中には地方から来られた学生が多くいます。しかし、産業や働く場所がないという理由で、卒業後江別市に就職したいという気持ちにつながらない人が多くいるようです。そのようなことから、政策分野の中で大学生がそのまま就職できるようなまちづくりが必要だと思います。

先日、大学生と話をした際に、その学生は介護の資格を取得しましたが、江別市の就職先が分からないという話になりました。4月にある施設が開設される予定となっており、職員の募集を行っていることを、その方は知りませんでした。江別市の福祉関係の情報も大学には入っていると思いますが、浸透していないように思います。

次に、資料2は経済分野、健康分野、子育て分野に分かれており、子育て分野の中でも3点に分かれています。3点に分ける必要はあるのでしょうか。

「子育て世代の支援」と「子育て環境の充実」は、同じような内容なので整理し、「子育て世代・環境の充実の支援」というように一本化できるのではないのでしょうか。

最後に、昨日、EBRIに行きましたが、あるレストランが閉店していました。なぜそのような結果になったのか理由を聞くと、テナント料が高い、工事はしているものの駐車場が狭く、出入りが難しいということでした。東野幌の方にとって、一番近い野菜や日用品を販売している店舗だと思いますが、品物が箱に入っている、足元に置いてあるなど雑然としています。そのような状況であるため、売場を整理してほしいという意見を聞きました。

新しくEBRIのような施設を誘致する際の検討課題にしていきたいと思います。

○押谷会長

田原委員に確認ですが、EBRIのような施設は必要だと思いますか。

○田原委員

私は、道の駅が早く出来ると良いと思っており、閉校した江別小学校跡地に道の駅を誘致してほしいと声を出しています。地方の観光客は高速道路を使い帰ってしまいますが、道の駅などは江別駅前開発につながると考えていますので、EBRIのような施設は必要だと考えています。

○押谷会長

先程の岸本委員の商店街の話とつながると思うので、何か工夫が必要だと思います。

○成田委員

資料2では協働とシティプロモートの枠組みがあり、さらに3つの戦略があるイメージですが、その中の協働意識の向上により、さらに各分野の取組が進むと思います。一部の人が参加するのではなく、多くの市民が参加して協働に関わることにより取組が加速するように思います。そのために、若年層に協働の意識をもってもらうことにより、次の世代、その次の世代には協働が当たり前になっていると思いますので、特に若年層の協働意識向上に取組んでいきたいと思います。ただ協働と言っているだけではなく、地域活動に参加しても

らう取組を広げ、郷土愛の醸成を進めることによって、多くの市民が関わる事が出来ると思うので、協働意識の向上を進めていただきたいと思います。

○西脇委員

青年会議所のまちづくり団体としての意見も踏まえますが、私のイメージでは、記載しているシティプロモートは既に行われているように思います。SNSなど様々な媒体を活用して十分発信していますが、それをどう生かしていくかが重要です。成田委員も話していましたが、それが協働とつながるのではないのでしょうか。

協働は広い言葉であるため、まちづくりに対する当事者意識という言葉をつけ加えると良いと思います。江別市民も情報を知るところまでは出来ていると思いますが、情報を知った上で、自分がまちづくりに参加していくという気持ちになることは難しい問題です。そのためには、一方通行ではない、情報の提供が必要だと思います。

青年会議所の中では、イベントや祭を行う際に、まちづくり、人づくりを行うように気をつけています。例として、まるごと江別の開催時には、事前に関係各機関や団体と協議を行い、どのような趣旨で行うのか意見を聞いています。関係当事者をいかに巻き込むことができるかが求められているため、当事者意識をさらに向上させる内容になると良いと思います。

○豊田委員

産業観光に関して、田原委員と同意見です。EBRIのような施設が江別市にあることが重要ですし、道の駅もできれば嬉しく思います。

江別市に何があるかを聞かれた際に、EBRIの知名度は高く、40代から50代の女性で一度は行ってみたいという人が何人もいます。江別市民として、札幌市からも多くの方が市内に集まってほしいと思います。EBRIのように立ち止まることが出来る場所がなければ、ただ通り過ぎてしまいますので、道の駅との抱合せでも良いのですが、立ち止まり買い物ができる場所も重要だと思います。

札幌市民にとって、江別市はJRで行く遠い田舎のまちだと思われており、近い認識を持ってもらっていません。札幌市からも近く、利便性の良いまちというPRが出来ると良いと思います。

○山崎（雅）委員

政策分野では、産業、福祉、健康の分野で意見を取り上げていただきました。

セラミックアートセンターなどは、観光として江別の粘土を利用して楽しめる場所となっています。田原委員の話していた道の駅など、西野幌や江別駅付近などに人が集まれる施設があっても良いのではないのでしょうか。

次に、都市型農業の推進ですが、他市に行った際に、木を自分の木として春先に予約し、時期になったらその自分の木の実を収穫することがありました。江別市では、ブルーベリーやハスカップなどが採れ、低木なものであれば収穫するのに困難がないため、空いている地域でそのような取組を行えば、観光として集客が出来るのではないのでしょうか。既存の建物や土地を利用していただきたいと思います。

健康分野について、岸本委員が大麻の商店街の集客について話をしていましたが、シルバー人材センターで3年前に元気プラザ' sを設置しまして、年代関係なくお茶を飲んだり、

包括支援センターの方が研修会を行い、人が集まっています。健康な人や高齢者が集まることにより、市の発展につながり、良いまちづくりになるので嬉しく思っております。

○中井委員

江別市は経済生産をもっと大きく捉え、外にアピールしていくために経済分野が特化した発想ではない方が良いのではないのでしょうか。

江別市で生産力があるものとして、教育があります。市内に4つ大学があり、学生の半分は市外からの仕送りで支えられています。この経済力は大きいと思います。

また、江別市は人口に比べて医療機関が多いので、従来の産業の外側に経済を支えている分野があるということに注目すべきだと思います。

最後に、都市基盤では「コンパクトなまちづくり」について様々な議論を行いました。その中で、まず既存の施設を大事に使うということをまちづくりの視野に入れるべきだと思います。また、顔づくり事業を行っていますが、次の展開をどうするのか議論しなければなりません。野幌地区だけで良いのか、あるいは、国道12号と駅周辺を江別としての顔づくりとするのかを検討する必要があります。

○山崎（啓）委員

3点、意見があります。

1点目、大学生の卒業後の進路については、札幌市の学生でも卒業後に東京に出る人が多いことから、江別市はさらに難しい現状だと思います。その部分を強化することも必要ですが、卒業後に江別市を出たとしても、数年後に愛着を持って戻ってくるような活動をするとうまいと思います。

2点目、「みんなでつくる未来のまち えべつ」と今回提示された戦略イメージは、広告的な目線で見ると、どうしても普通に見えてしまいます。文言自体がシティプロモートになるような特徴を出せると更に良くなると思います。

3点目、協働とシティプロモートについてです。各委員の意見にもありましたが、なぜ協働が必要なのかという理解が重要です。行政の現状、予算の現状、少子高齢化の中で、自分が行わなければならないという理解が進んでいないので、何らかの形で進めていきたいと思っています。

江別市民に話を聞くと、「江別市は何もない」という悲観的な意見が聞こえてきますが、逆に江別市はリラックスできる所が良い部分です。江別市を好きになる、誇りを持てるような市内向けのシティプロモートも重要だと思います。

○三ツ井委員

「みんなでつくる未来のまち えべつ」を実現させて、素晴らしい江別市を作るためには、協働を行い、市民一人ひとりが当事者意識を作らなければならず、その手段がシティプロモートだと思います。

平成29年度行政評価外部評価委員会の資料の中に、「協働を知ってもらう啓発事業」があり、その説明には「事業の目的は、協働を知ってもらうだけの事業なのか、それとも協働を知ってもらった後に何か行動してもらう事業なのかを明確に意図欄に記載すること」という文章がありました。現在、見直しの時期に入っていますが、積極的に情報発信を行ってい

るという意見があったので、知ってもらうということから行動を起こすことへ方向性を変えていく時期になっていると思います。情報発信を行っていても受け取り手の意識がなければ、情報を上手く受け取ることが出来ない、また、情報を受け取ることが出来たとしても、効果的に利用できないこともあります。シティプロモートをさらに戦略的に用いて特徴あるものにする、若年層に訴えるために分かりやすいものにする必要があると思います。

協働は、共に行うというイメージがありますが、民間や個人の力で何ができるかを考える当事者意識を醸成してほしいと思います。先程、大学生の就職先がないという話がありましたが、大学で学んだことを生かして自分で事業を起こすといった方向性に持って行けるのではないのでしょうか。そうすると素晴らしい江別市が出来るのではないかと思います。

○田口副会長

機械を持たない人にとっては、情報が豊富にあっても届いていない現実を理解しなければなりません。デジタルとアナログがありますが、アナログで重要なのは資源の中の人です。人と人が場をどうつないでいくか。江別市の現状をみますと、産学官民が活性化されているように思いますが、単発なイベント事業になっており、機能性や地域活性化にどう寄与して、どうつながるかが、今後の段階として求められてくるだろうと思います。当審議会ではプラットフォームという言葉を挙げていますが、調整・管理・維持していく機能が必要だと思っています。

次に、新たな起業、新たな展開は重要ですが、これまでの産業など維持管理するべきものはたくさんあります。それらを活用した上で、新たなもので江別ブランドを作ることが最もコストをかけず、地域資源を最大限に活用しうる条件だと思っています。古き財産、資源を活用しながら現在の知恵を生かしていくことが重要だと感じています。

○押谷会長

各委員から様々な意見をいただきました。本審議会の冒頭でも申し上げましたが、私たちはえべつ未来戦略で、今後江別市、市民がどういうことが出来るのかを示していきます。

今後、パブリックコメントという形で市民から意見をいただきます。本日、意見聴取結果として示した資料1、戦略イメージを示した資料2、各委員の意見を踏まえて、まとめていきたいと思っています。その中では全体的な戦略を示すこととなりますので、いただいた意見の中で具体に入る部分については、上手く表現したいと思っています。

私からの意見ですが、シティプロモートは、江別市で大きな課題になっています。豊田委員から札幌市民にとって江別市は遠い場所という発言がありました。

ヨーロッパでは、市民が当事者意識を持ち、住んでいる街に誇りを持つという概念のシビックプライドという言葉があります。一人ひとりが江別市に対して愛着、誇りを持つことがより大きな発信になり、外から人を招きます。その中で、一人ひとりが何を考えるのか、何をするかが重要になります。

シティプロモートという言葉は、プロモートをするというイメージですが、プライドを持ち、当事者意識を持つことが重要です。江別市では、シティプロモートという言葉が定着しているので使用することは問題ないと思いますが、シビックプライドという概念で私たち自身の問題であるという当事者意識、誇りを強調していきたいと思っています。他市町村との差別

化につながり、遠いまちではなくなることになると思いますし、そのようなイメージを考えていかなければならないので、工夫していきたいと思います。

田原委員から戦略イメージの中で3つの分野を立てているという話がありましたが、そのことも含めてこの3本柱で良いのかとありました。その経済分野、子育て分野、健康分野を包括する意味でシティプロモートがあり、そのシティプロモートを支える協働があるという階層構造になっていますが、よろしいでしょうか。

○各委員

了。

○中井委員

今回、人口の社会増についてありましたが、5年間の最大の変化だと思います。しかし、現在の計画では、人口が減少するということが強く捉えられていますが、なぜでしょうか。今後、社会増を続けるにはどうすると良いのかをさらに議論すべきであったように思いました。

○押谷会長

本日、配付された資料1のシティプロモートの中では、社会増の持続のための内容について様々なことが記載されています。全てを書き加えられるかは分かりませんが、認識した上で行う必要があります。社会増を維持していくための具体的な施策の方向性を示していく審議会ですので、十分に踏まえていただけると理解しています。

先程、田原委員から3つの柱が3つの項目となっておりますが、簡略化できないかという話がありました。現実的でないことは記載出来ませんが、推進していくことは記載した方がよいということだと思います。

今後、パブリックコメントに向けて素案を作成していくため、整理させていただきたいと思います。

他に質問、意見はありませんか。

○各委員

なし。

○押谷会長

資料1、資料2については貴重な意見、要望がありましたので、それを踏まえて整理させていただきます。パブリックコメントに向けての素案は、私や田口副会長の意見を含めて事務局に作成していただきたいと思います。

次回は、4月4日の開催になりますが、作成した素案を基に議論していただきたいと思います。

■次回の審議会について

■閉会